



希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと 和子

2024年 第74号

市民相談はお気軽に

090-5574-9079

発行 橋本 和子



令和6年度予算

带状疱疹ワクチン接種費用助成事業

対象：50歳以上

助成内容：生ワクチン（2,000円×1回）

または不活化ワクチン（5,000円×2回）



熱中症対策として、各学校体育館等に空調設備を設置。

小学校（全55校）

（令和6年度完了予定：28校）

（令和7年度完了予定：27校）

特別支援学校（全2校）

（令和6年度完了予定）

中学校（全26校） 武道室（全9校）

高等学校（第1・第2体育館、柔道場、
剣道場）

（令和6年8月使用開始予定）



木造住宅の耐震化の促進を図るため、助成額の引き上げ。

耐震診断助成額：8万円

耐震改修助成額：100万円

対象は、平成12年5月以前に新築された木造住宅です。

再犯防止推進計画ができました。

船橋市における刑法犯認知件数、市民安全推進課の資料によると、令和4年12月末現在で、3,118件、令和5年12月末現在では3,254件と微増しています。

犯罪や非行をした人の多くが、刑務所や少年院等に入り、事件への反省を踏まえて、生活を立て直し、地域に戻ってきますが、再び犯罪や非行をする人も少なくありません。

再犯をする人の多くが、住むところが無い、年齢にもよりますが、働くことができずに、収入が無いなどが挙げられています。

また、知的障害など生きづらさを感じている人、地域で孤立しないようにすることも大切で、保健や福祉サービスにつなげることも重要です。素案の時に、じっくり読み、何点か確認させていただきました。

金杉台中学校跡地活用

(仮称)埋蔵文化財調査研究センター

金杉台中学校が廃校に決まってから、早いもので、2年が経ちました。今回「(仮称)埋蔵文化財調査研究センター」として、令和6・7年度で設計・改修工事が行われ、令和8年度供用開始の見込みが示されました。廃校が決定してから、これまで時間があったわけですが、市だけでなくNPO法人など民間の事業者や団体などが、活用方法を考えていた可能性もあります。私も数名の方から、こんな事なら支援できる、こんな事で地域のために役に立つならやってみたい、などの意見をもらいました。

旧金杉台中学校の跡地活用について、市内部で検討するだけではなく民間の事業者や団体から、幅広く意見や提案を募集してもよかったのではないのでしょうか。



跡地活用の検討にあたり、既に廃校活用を行っている他自治体の例も参考に、まずは、庁内における需要調査を実施した。

体育館は耐震の関係や駐車場が狭いため、今後の利用者の利便性を考慮し、解体して駐車場にする。
武道室は、御滝中学校の部活動場所、学校開放事業で利用。
校庭は、市船の部活動で使用。
引き続き、校庭は「一時避難場所」
武道館は「宿泊可能避難場所」。
武道館の屋上にあるプールはどうするのか？



消防水利として活用予定

一部の部屋を地元の町会・自治会に貸し出すことを検討している。



旧金杉台中学校の用途地域は、第一種中高層住居専用地域として定められており、その制限内で、地域の良好な環境を害するおそれがなくまた通常時において、地区外から一時に多数の人または車を集散するおそれのない教育的な目的を持つ施設として設置するもの。

施設に展示室や実習室を設け、発掘調査で出土した遺物の展示や市民向けワークショップを開催する予定。

取掛西貝塚から出土した貝や土壌のサンプルなども保管する。

オーバードーズ

市販薬や処方薬を、過剰に摂取をすること

ここ数年、「オーバードーズ」で、救急搬送される若者や女性が増えています。厚労省が、令和2年1月から令和5年6月までの約3年半を対象に、調査したものによると、どの世代も、圧倒的に女性が多く、中でも、10代~20代が多くなっています。



生活習慣の特徴は、

睡眠時間が短い・朝食を食べない・インターネットの使用時間が長い、

学校生活では、

学校が楽しくない・親しく遊べる友人や相談できる友人がいない、

家庭生活では、

親に相談できない・大人不在で過ごす時間が長い・家族との夕食頻度が少ない、コロナ禍で自粛生活によるストレスなどが挙げられています。

薬物乱用といえば、違法薬物、大麻や覚せい剤などを思い浮かべますが、咳止めや風邪薬・解熱剤・鎮痛剤・抗アレルギー薬・カフェインなどの眠気防止薬などの過剰摂取も含まれます。これらの薬は、医師が診察し薬を処方する必要はなく、また、薬局などでも薬剤師による対面販売は必須ではなく、インターネットでの購入、ドラッグストアが、あちらこちらに見受けられる今の時代では、いとも簡単に、大量購入が可能です。

これらの背景には、社会的孤立や生きづらさなどが挙げられます。

「オーバードーズ」を知ってもらうために、保健所から、「オーバードーズ」とはなにか。困った時は一人で悩まずに相談してほしいこと。相談機関などを発信してほしい。

本市においては、オーバードーズなどの薬物乱用防止の啓発として、ホームページや広報の他「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実施期間において、街頭キャンペーンの実施。ふなばし健康まつりの場等で、啓発を行っている。

また、薬の依存や心の問題を抱える人への相談窓口として、こころの相談窓口を開設し、様々な悩みを抱える方やご家族からの相談を受け付けている。

しかしながら、社会的孤立や生きづらさを抱え、現実逃避や不安解消などのために薬の過剰摂取という手段をとってしまう方の世代として、10代20代の若い方が多い状況があるので、若い方の情報源として活用が多いFacebookやXなどのSNSを利用するなど、より一層の周知を図る。

SNS相談@船橋 (市内在住・在勤・在学)

月~金 午後5時~9時 (365日)

土日祝休 午後1時~5時



こころの相談 (船橋市保健所)

047-409-2859

(平日9時~17時)

眠れない・気力がなくなった・アルコール・ギャンブル・自殺に関する不安等の
精神保健相談



消防局・映像伝送システム

日頃から、市民の安全・安心のために、活動をしている消防関係の皆様にも、感謝申し上げます。

救急車と出会わない日は無いほど、救急出動は右肩上がりです。また、火災はもちろんですが、高齢者のひとり暮らしが増加する中、家族等から、鍵が開かない、連絡が取れないなど、レスキュー隊の出動も年々増加しています。

このような中、中央・東・北消防署の3消防署体制から、夏見・芝山消防署を加えた5消防署体制となり、消防局に、指揮指令課を設置し、119番通報から現場活動に至るまでの指揮体制を強化するための、組織改正も行われます。

令和4年第2回定例会で、ウェアラブルカメラとドローンの活用について伺い、災害現場から消防局に映像が届く映像伝送システムの導入を求めたところ、令和6年度中に導入されます。



ドローンとスマートフォンを使用した映像伝送システムにより、水難事故や火災等の災害現場の状況をリアルタイムで把握することが可能となる。

また、火災現場においては、ドローンで上空から俯瞰的に撮影した映像で、火災の延焼方向を確認し効果的な災害活動が行える。

近年は、災害現場において、消防職員の殉職事故が多発していることから、災害現場に潜む危険性を事前に予測することで、隊員の安全管理を行うことができる。

はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。

S.35年 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司

